

2016年(平成28年)

5月31日

No.1218

毎週火曜日発行(第5週は除く)

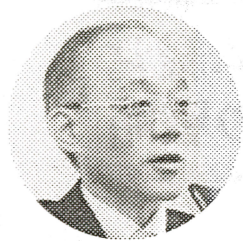
リフォーム産業新聞

The Japan Journal of Remodeling

省エネ改修の中で、照明器具のLED交換は効果的な取り組みだ。住宅のみならず、各分野でLED化が進んでいる。

駐車場ビジネスを展開する東京建物グループの日本パーキング(東京都千代田区)では、3年前から全国670カ所の平面駐車場の看板・精算機テント照明のLED化を進め、3月末に全物件の交換を終えた。

昨年からは全国35カ所の大型自走式立体駐車場のLED化を進め、約7割の23物件の交換を行った。LED



熊倉清秀企画部長

照明器具で省エネ化

LEDで50%以上のコストダウン

D照明の交換は設計、試算から取り付けまでを一貫して手掛けるプライム・スタ(東京都港区)が行った。

これまでの総投資額は約4500万円。物件にもよるが、現在3〜5割の電気代削減につながっている。試算上は2年半で投資額の回収が可能となっている。

「これまでもエコは推進していましたが、コストが見合わず実行に移せないものがありました。LEDは最近コストが見合うようになり、エコへの取り組みが

ビジネスのラインに乗るようになっていきます」(熊倉清秀企画部長)

225台収容の埼玉県さいたま市内にある立体駐車場の場合、材工価格244万円、216灯を交換。月の電気代が30万円から13万円へと5割以上削減し、1年半以内に投資回収の見込み。また、LED化により「明るい、きれい、エコ」を打ち出すことで顧客の獲得にも役立てている。



同社は4月1日に同じ東京建物グループの駐車場ビジネスを展開するマオス、新総企を統合。3社を合わせた駐車場は現在全国に1330カ所となった。同社では2、3年以内に照明のLED化100%を目指す。